

みらいん

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

みやぎの

第13号



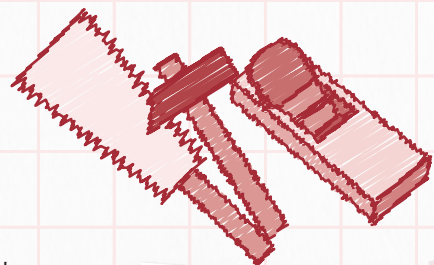
◀12年間の大工職人経験がある会長自らが建てた築43年の自宅。昨年5月からコツコツ修繕を続けています

今月の
ひと

住民の皆さんの暮らしやすさを最優先する 堀切町内会長夫妻

世代の異なる者同士が助け合う、地域の再建に努める

岡田地区の堀切町内会は、津波被害が大きかった地域ですが、隣接する新浜や南蒲生の皆さんの被害状況を気遣いながら、地道にコミュニティを保ち続けています。その立役者となっているのが、町内会長の佐藤勝慶^{かつよし}さんと、福祉委員を務める妻の千鶴子さんです。佐藤会長が震災後にまず取りかかったのが、町内会集会所の修繕でした。震災以降、家に閉じこもりがちになったお年寄りや、自宅が津波被害に遭い仮設住宅に移られた方々にとって、地域との交流を取り戻す場所が必要だったからです。その集会所は多くの方の協力を得て、昨年12月に完成。お年寄りのお茶会や、子どもをもつ若いお母さん方の交流、町内会の集まりなどに使われています。「若い人たちの声を聞くと我々もとても勉強になる」と言う佐藤会長が常々心がけているのは、相手からの声を待つこと。「人にはそれぞれのペースがあるから、待つことは大事」と、相手のペースに合わせて考えを受け止めた上で、助言や導きをしています。明るく面倒見のよい千鶴子さんと一緒に、皆さんをあたたく迎え入れる佐藤会長です。



2012

12月

チアダンス

キョウコ
チアダンス
プレイス
中学生グループ

結成から8年の
実力派
ダンスグループ

仲間に会える重要な時間

福田町近辺の子どもたちを集めて創設されたチアダンス教室。生徒には震災当時、中野小学校5年生だった遠藤菜里さん、鈴木美憂花さん、鈴木莉子さん、仲丸美里さんがいます。震災後、指導者の上野境子さんは、住まいが離れてしまった子どもたちをなんとか早く会わせてあげたい、との思いで練習を再開しました。心を痛めたであろう子どもたちですが、上野さんの前では普段と変わらない振り舞いだったと言います。仲丸さんは「チアは、普段会うことができなくなった友達とひとつのものを作り上げていく達成感がある」と皆で活動することの大切さを語ります。



エネルギーがほとばしる、熱のこもった練習

◀Smile for Japanの
シンボルマーク



溢れるほどの笑顔です

震災の風化を防ぎたい

震災を機に、上野さんは「文化活動の機会を増やして、震災を乗り越えられれば」という想いからSmile for Japanという団体を立ち上げ、イベントの開催・運営などを行っています。団体のシンボルマークを考えたのは、他ならぬ中野出身の仲良し4人組。震災で大切だと思ったエネルギー（黄色）、水（水色）、自然（緑）、温かい心（ピンク）を色で表現しました。

2013年3月10日には、メインイベント「Smile for Japanフェスティバル2013」を仙台サンプラザで開催する予定です。現在、イベントに参加してくれる個人・団体を募集中（期限は12月中旬）。発表の内容は、歌、踊り、ダンスなどジャンル不問です。

練習場所は変わったけれど

創部から13年目のスマイルは、中野小学校のPTAバレーボールチームが前身。「町内の主婦は全員参加、みたいな感じだった」と皆さんが口を揃えたとおり、蒲生町内会出身者でメンバーは構成されています。震災後は知人や企業から練習着、ボールなどの支援があり、近隣チームからの誘いで練習を再開しました。現在、小学生の子を持つメンバーは学校のある中野栄周辺に住み、その他は利府町、原町などから練習場所である鶴巻や岡田に通っています。



チーム名通りの微笑みで

明るく元気なスマイル

「震災後は親類と同じくらい早くにスマイルの仲間に安否確認を取ったよね」と、メンバーの皆さん。互いの関係に壁が無く、気心の知れた仲間だからこそこの連帯感があります。「全員が集まることは少ないけれど、集まった時は皆の顔が見られて安心する」と代表の本間裕子さんが話すと、「スマイルは生きる糧。自分が自分らしい笑顔でいられる場所」と盛り上げ役の秋葉けい子さん。気負いの無い場だからこそ、長く続けていけるのでしょう。



大会のこの日、0勝2敗でしたが、やるときにはやる！皆さんです

ママさんバレー

スマイル

バレーボール
を通じて
今も続く連帯感

よりどころを求めて

スポーツを通して 深める交流

地域で取り組んでいたスポーツチームの存在は、住まいが離れてしまった方にとっては、元の地域と繋がるよりどころ。また、被災地域にとっては元気の源でもあり、繋がりを活性化してくれます。活動が盛んな3つのチームを紹介します。

少年野球

岡田小 クラブ

創部から
40年近く経つ、
地域に根ざした
チーム



待望の得点に、沸くメンバー達



この局面をどう乗り切るか

10月の 大会の様子



ほくのラーメンあんまり食べないでね...

チームの特色

野球を通して、しっかりと挨拶ができ、最後まであきらめない気持ちを持つ子どもを育成する岡田小クラブ。今季は春に宮城野区で3位、夏は市の大会でベスト16という成績を収めています。2007年には市で準優勝もしました。現在は約20名の部員の中に幼稚園児がいるということが示す通り、少子化で子どもを集めるのが大変になりました。

た。「それでも毎年、上の子たちが卒業しても新しいチームはそれなりに頑張っている。自分たちが何とかしなければ、という自覚が子どもたちの中に芽生えるのだろう」と、監督の小野忠治さんは話します。

寄り合えば元気に

震災後の校庭にはヘドロが堆積して練習が出来ませんでした。そのため、他校の声がけにより練習会場を移して活動し始めた同クラブですが、現在は岡田小学校に戻って練習に打ち込んでいます。部員の中には、震災により家を失って仮設住宅にいる子、転校したために遠くから毎週通って来ている子もいる

のが現状です。「震災後の久しぶりの集まりで、暗く重かった子どもたちの表情が、野球を始めると普段通りにワイワイと和やかになった」と監督。共通の目的を持った仲間との存在と野球を通じたやり取りに、心が落ち着いたようです。

繋がれてきた地域の関係

「少年野球はスタートラインであるから、野球に限らず楽しく色々なことに挑戦して欲しい。次の練習が楽しみで仕方がないというふうになってもらいたい」と小野監督。全国大会に出場するという気持ちで練習に取り組んでいます。

一方で、6年生が低学年に礼儀を指導するなど、野球以外の人格形成の場でもある同クラブ。総監督である鈴木省吾さんは「地域の繋がりが無いと長く続かない。岡田はその関係が出来ているから、いつまでもOBとの交流がある。町内の人たちの力が大きいよね」と話します。



保護者も含めて、皆で“岡田小クラブ”です

このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々にリレー形式でご登場いただきます。



◀はきのさんが習い始めた「ちぎり絵」の作品を手に。座布団カバーなども手づくりです

第8回

小野寺はきのさんご夫妻(中野・港)

ラジオの大津波報道を聴いて避難

港町内会で民生委員などの役職に携わってきた小野寺はきのさん。あの日は、自宅で婦人防火クラブの打合せを行う予定で、資料づくりをしていたところ地震が発生しました。今年初めに老人クラブ会長を退任した夫の春雄さんは、毎日欠かさず散歩の途中、海沿いを歩いていたところで発災。歩きながら聴いていたラジオで「6.15の大津波」と報じられ、海でアサリ採りをしていた人に大声で避難を呼びかけた後、大急ぎで自宅に戻り、夫妻で中野小学校へ避難しました。「町内の方が車に乗せてくれたことで命が助かった」と、感謝しています。

新旧のつながりを大事に

親戚の紹介で上杉の借上げ民間賃貸住宅で暮らす夫妻。震災以降4回入院したはきのさんにとって、春雄さんのお見舞いは何よりも心強く大きな支えでした。そんなはきのさんは、日本舞踊・松若流名取で、地元で10年前に設立した「由舞会」の皆さんと、月に1度交流する時間をとても楽しみにしています。また春雄さんは、以前から続けている散歩に加えて今年4月から毎週月曜日に「豊齡学ふるさと文化コース」を受講するなど新しいことにも積極的です。今後は長男家族が住む萩野町に近い復興公営住宅への入居を希望している夫妻。住む場所が離れても、地域の皆さんとの交流は続いていきます。

次回は中野地区出身の方にご登場いただく予定です

読者からひとこと

●私と妻と息子、3人とも卯年なので、「うさぎ小屋に住んでいます」と、言ってます(笑)。災害で全て流され、仮設住宅を提供されたことに心から感謝しています。 小野久夫さん

●社会に尽くす活動をするのが老人クラブであり、それは自分自身を輝かせてくれるもの。皆で植栽した公共施設のきれいな生垣や花壇を見ると、心が和みます。 田邊慶子さん

みらいん編集部 取材ダイアリー

10月

みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

17日(水) 昔の農作業を寸劇で披露 (宮城野の里)



甚大な津波被害を受けた農家の方も所属する「農協高砂婦人部」の7名の皆さんが、高齢者福祉施設「宮城野の里」を慰問。昭和40年以前の農作業の様子を寸劇で披露しました。農作業着、馬耕用の馬に至るまで、全て自分たちで工夫した手づくりのものです。

21日(日) 北海道白老町 “グランマ”による炊き出し (仙台港背後地6号公園仮設住宅)



白老町の地域活性化を目指すおばあちゃんたちが、地場食材での炊き出しに訪問。振る舞われた山菜ご飯や石狩汁に住民の皆さんは舌鼓を打ちました。元気なおばあちゃんたちの姿に、活力をもたらした人も多かったのでは？

21日(日) 震災後初の住民の集い (岡田・堀切集会所)



堀切町内会の皆さんが、震災後初の交流会を開きました。「いろんな話をして、飲んで食べて、皆で楽しいひとときを過ごしましょう」と、佐藤町内会長。まるで親戚の集まりのように、世代の異なる者同士、和やかな交流が続きました。毎週日曜日13時から、若いお母さん同士が集会所で交流を深めています。

21日(日) みやぎの・まつり (榴岡公園)



震災を乗り越えた皆さんが、手づくり品などを販売し催しを盛り上げました。

28日(日) 市民センターまつり (高砂市民センター)



昨年は震災の影響で見送られた催しでしたが、多くの参加者で大盛況でした。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体で話し合われている内容についてお知らせします。

新浜復興の会

新浜の新たなまちづくりを検討する現地再建グループと、上岡田・久保野地区への集団移転を目指す移転再建グループが、それぞれの復興を果たすべく活動しています。



▶多くの参加者が駆け付けた会合

10月27日(土) 上岡田・久保野地区への移転希望グループの会合

内容 ●これまでの地権者とのやりとりの流れを報告

当日の様子 移転グループ執行部が移転候補先である上岡田地区の地権者側に出向き、数回ほど協議の場が持たれていることが、リーダーから報告されました。地権者の方々は将来の構想を含めたもの(先発の22世帯分より広範囲な開発)を期待している為、久保野地区の東側に開発の余地を残して移転計画を進めるのが良いだろう、と話がありました。「現段階では22世帯分を話を進め、先のことは地権者に委ねるのが良いのでは」という声も上がりました。

移転再建グループ問い合わせ先: リーダー 瀬戸健介 090-1066-5646 復興の会の問い合わせ先:代表 遠藤芳広 090-2020-4002

南蒲生復興部

個々の生活再建と南蒲生の復興を迅速に進める為、移転・現地再建グループがそれぞれ話し合いを進めています。



▶意向調査の回答率の低さはコミュニケーション不足かもしれない、と声が出ました

11月7日(水) 全体会議

内容 ●第2回意向調査アンケートの集計報告 ●復興まちづくりに向けた目標と計画の報告

当日の様子 アンケートの回答から、前回は移転を希望していた4世帯が現地再建希望に変更になったこと、現地再建者と移転再建者の繋がり継続を望む人が一定数存在することが分かりました。また、町内の塩事業センター西側への移転は、希望者が少ないことで比較的早く開発ができるだろう、と市側から話がありました。若い世代のグループ「えんの会」からは、長い将来を見据えて杜の都の田園文化を受け継いだ田舎を目指していく、という地域づくりの指針が示されました。

問い合わせ先:代表 芳賀正 090-4042-9464 会合は随時開催 住民説明報告会:毎月最終日曜日 岡田会館

中野小学校区復興対策委員会

11月4日(日) 第32回復興対策委員会

報告事項 <4町内会から> ●西原:町内会の集まりで出された質問は以下のとおり
・背後地の抽選に漏れた場合、第2希望への移転は可能か
・資材価格の高騰は、今後どうなっていくのか
・国の予算で行う復興事業であるから、宅地価格をもっと安くできないのか

<蒲生駐在所から> ●素性の知れない人に物件を貸す時には、間に管理会社を入れるなどしてトラブル回避をお願いしたい

<復興事業局から> ●防災集団移転促進事業の進捗報告と質問への回答
・荒井公共区画整理地区48宅地の申込受付は11月11日から、抽選日は12月16日
・仙台港背後地地区の申込受付は1月下旬から、抽選日は2月予定

中野地区4町内会(港・蒲生・西原・和田)が一丸となり、復興に向けた活動を行っています。

・仙台港背後地地区は宅地数を増やすべく、地権者には換地を売って頂けるよう、交渉中である
・仮に仙台港背後地抽選に漏れても市が整備する地区を第2希望地にしている方の宅地は確保するよう調整中
・市で整備した土地を購入する場合、支払われた購入費は市を通して国庫に返還する

当日の様子 委員から市側へ、残っていた建物を市の勧めによって取り壊したという方に対する配慮を、「もっと真剣に考えて欲しい」と要望がありました。毎回のよう議論に上がるが、何度でもあきらめないで住民の声を伝えなければいけない、という声もあがりました。

問い合わせ先:委員長 高橋實 022-258-3068 定例会議:毎月第1、第3日曜日16:00~ 鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

被災地レポート

取材地

南蒲生浄化センター (南蒲生地区)

津波襲来後も作業に奮闘した
沿岸部の下水処理施設

「津波で折れた松の木が、時速百キロ近い速さで魚雷のように建物へと激突していきましました」。宮城野区の下水処理場「南蒲生浄化センター」の石川敬治所長は、津波の破壊力を振り返ります。

浄化センターは太平洋を望む砂浜に隣接するエリアにあります。仙台市の総人口一〇六万人のうち約七割、七十一万六千人分の下水浄化を担っています。一日当たり処理する下水は約三十万トン、雨天時には約百万トンに及びます。

震災発生時は、職員三十四人と協力会社ら六十七人の計百一人がセンター敷地内にいました。事前の避難訓練通りに海から一番遠い管理棟屋上に避難、人的被害はありませんでした。

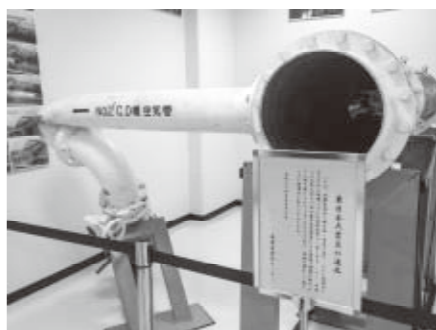
「津波に襲われた時、私はセンターから離れた場所にいました。あれほど大きな津波です。作業員は全滅に

近い状態なのではないか…と最悪の事態を考えました。仲間の無線から「全員無事です！」という声を聞いた時は、うれしさと半信半疑が入り混じったような気持ちでした」と石川所長は胸をなで下ろします。

震災発生翌日、復旧作業のために石川所長は職員たちと共に浄化センターに戻りました。現場では機器のほとんどが水没し、全ての機能が停止していました。「下水は浄化施設が機能していかなくてもお構いなしに流れてきます。汚水が市街地に逆流する最悪の事態を防ぐために、職員



解体と新築工事が同時に進む現在の南蒲生浄化センター。津波は写真右の建物が見えなくなる高さには達しました



津波の影響で折れ曲がったパイプ

たちはひたすら排水作業に専念しました」と石川所長。排水ゲートは、ハンドルを百回まわして、わずかに捻じほどしか開きません。停電によって、手作業を強いられた職員たちは不眠不休でハンドルを回し続け、五日かけて百六十捻までゲートを開き、危機を免れました。

施設の早期復旧のために 市民一人一人も心がけを

現在、建物の解体と新築工事が進む所内には、職員と協力会社を合わせて六百八人が働いています。新し

い施設は太陽光パネルと水力発電装置を備える環境対応型に生まれ変わる予定で、三年後の二〇一五年度内の完成を目指しています。「生死を分ける体験をした場所に、毎日働きに来る職員たちの気持ちを想像できますか。私の頭の中の時計は、あの日で止まったままです。早急な再建を目指すのは、水の放流先で生活の糧を育てる漁業組合の方たちも復旧を心待ちにしているためでもあります。多くの人たちのためにも、自分たちが頑張らなければ」

石川所長の言葉から、復興に対する熱意が伝わります。毎日の生活を衛生的に保つためにも、下水道は必要不可欠。その下水道を使っているのは、他ならない私たち。仙台市民一人一人が少しでも下水処理の仕組みを理解して、負担をかけないような気をつけるだけでも浄化センターの復興を早める事ができるといふ事を、忘れてはなりません。



南蒲生浄化センター所長、石川敬治さん

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

宮城・福島被災地の現状を伝えるイベント 「演劇&映画&トーク 今、被災地は!」

市民の立場から自発的に地域の文化活動を支援する「薊の会」が、宮城・福島の被災各地の現状を演劇や映画を通して報告する催しを行います。

対象 どなたでも来場できます
時 12月15日(土) 第1部13:30~16:45、第2部17:15~20:35
所 エル・パーク仙台 6階ギャラリーホール
内容 第1部 福島県立相馬高校生徒の演劇「今伝えたいこと」、福島と石巻のドキュメンタリー映画上映、「石巻市復興を考える市民の会」と「NPO法人にじいろクレヨン」の活動報告
第2部 若松丈太郎氏(南相馬市)ゲストトーク、ドキュメンタリー映画「原発切抜帖」上映、トークセッション、交流会
料金 第1部、第2部 ともに各1000円(当日券各1200円)(高校生以下無料) 前売券はTEL・FAXで予約受付中
問 TEL&FAX 0229-67-2407 薊の会(穂積)

健康応援団

健康についての講座や相談を行っています。地域の自主グループなどの運動の日もあります。(日程変更あり。詳しくは問い合わせを)

対象 どなたでも参加できます
時・所 各仮設住宅集会所
▼高砂1丁目公園 12月21日(金)10:00~ ▼鶴巻1丁目東公園 1月8日(火)13:00~ ▼福田町南1丁目公園 12月17日(月)10:00~、1月7日(月)10:00~
▼岡田西町公園 12月11日(火)13:30~、12月20日(木)10:00~ ▼港南西公園 1月11日(金)10:00~
▼仙台港背後地6号公園 12月19日(水)10:00~ ▼扇町1丁目公園 12月21日(金)13:30~ ▼扇町4丁目公園 12月12日(水)10:00~
問 022-291-2111(内線6782、6784) 宮城野区家庭健康課健康増進係

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
ちくちく工房(お手玉づくり)	泉区のみなし仮設にお住まいの方	12月7日(金)	10:00~12:00	泉区中央市民センター	9月の黒松サロンで好評だったサロンの第2弾。手を動かしながらおしゃべりしましょう	不要	支えあいセンター はずみ 022-772-5755
あらまちサロン	若林区荒町地区にお住まいの被災者の方	12月12日(水)	10:00~12:00	荒町市民センター	トーンチャイム演奏、茶話会	要(電話)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
雄勝サロン	石巻市雄勝で被災され仙台市に来られた方	12月14日(金)	13:30~15:30	宮城野区中央市民センター	茶話会	要(電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
きまちハートふる「クリスマスヒーリングコンサート&交流会」	木町通市民センター周辺にお住まいの方ならどなたでも	12月15日(土)	13:30~15:00	木町通市民センター	クリスマスコンサート、地域の方と一緒にレクリエーション交流会	要(電話)	支えあいセンター あおば 022-217-7234
ほのぼの富沢サロン	富沢周辺のみなし仮設にお住まいの方	12月20日(木)	11:00~13:00	富沢市民センター	調理実習(豚汁とおにぎりを皆で作ります)	要(電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

多重債務でお悩みの方はいませんか?

東北財務局では、専門相談員を配置し、自らの収入で返済できないほどの借金を抱え、お悩みの方からの相談に応じています。相談者の抱える借金の状況を丁寧に聞き取り、必要に応じて弁護士・司法書士などの専門家に引継ぎを行います。相談無料、秘密厳守。

対象 多重債務でお悩みの方(自営業者も含む)
時 月~金曜日(祝日、12/29~1/3を除く)9:00~17:45
問 東北財務局 金融監督第三課
青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎4階
022-266-5703(直通)、022-263-1111(内線3080)

子どものことで困難を抱える家庭を支援します

災害子ども支援センターでは、東日本大震災の発生により子どものことで困難を抱えるようになった家庭を対象に、さまざまな支援を行っています。

対象 被災されて困難を抱える家庭
支援内容 ①館内で様々な情報やパンフレットを掲示・配布②物資支援、バザー③子どもの一時預かり④開館時間内いつでも利用できるサロン⑤個別相談
問 災害子ども支援センター
宮城野区幸町4-7-2 みやぎのちと人権リソースセンター内 022-292-5290 平日9:30~17:00

仮設住宅出前講座

高砂市民センターが、宮城野区内の仮設住宅でさまざまな講座を開いています。

対象 対象の仮設住宅にお住まいの方
内容 「お正月のお花をいけよう」各流派の若手先生が花器、剣山、花材を用意し、華道でこころの復興支援を行います
時・所 12月28日(金)
岡田西町9:20~、福田町南1丁目公園9:40~、鶴巻1丁目東公園10:00~、仙台港背後地6号公園10:20~、高砂1丁目公園10:40~、各仮設住宅集会所
問 022-258-1010 高砂市民センター

厳しい現実の裏打ち

「この広い大きな家に長年住んで来たので、今の仮設住宅の狭さには耐えられなくて戻ってきた」と、津波が突き抜けて破壊されても、なつかしの我が家の大掃除をしてゐるご婦人がテレビのインタビューにこたへてをりました。

思へばあの敗戦後の焦土と化した日本。ほとどの家庭も貧しかったあの時代を経験してゐる人達にとっては、今の何もかも便利な恵まれた暮らし振り有難いと思はずにはゐられませぬが、ひもじさを知らずに育った新しい人々は今の生活が当たり前だとすると、被災によって一瞬にして豊かさからゼロどころか、マイナスの境遇への急転回ですから、身と心がその現実には追いついて行かないのではなにかと、いざさか心配でもあります。

そんな人間の苦悩を一身に背負って、救つて下さるのがあの「観世音菩薩」だと世間では言ひ伝えられてをりますが、肝腎のお釈迦様はその悪い状況を好転させて皆を救済するなどは言つてをらず、私共の家の安全の祈りにはいつも「家内危険が裏打ちされてゐることを忘れちゃいけないよとおっしゃつてゐるのです。」

徳照寺 住職 佐藤和丸

佐藤和丸 (さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ

A	B	C	D
---	---	---	---

1	2	3	4		
A					
5		6			
7			8		9
		10			
			B		
	11		12	13	
14			15		16
	C				
17				18	
				D	

タテのカギ

- ①仙台市のお正月といえばこれ。明けて2日から、福袋や特価品で大賑わい
- ②ギリシャ神話の最高神
- ③仙台市で生まれた環境保護ヒーローといえば、植樹〇〇
- ④仙台市で大晦日の料理に欠かせないのが、〇〇〇カレーの煮付け
- ⑥「注連縄」の読みは？ お正月に玄関などに飾ります
- ⑧仙台市の縁起物、青いことが特徴の〇〇〇〇だるま
- ⑨宮城県庁の組織で、中学校までの指導などを管轄する〇〇教育課
- ⑩2人で歌ったり、ピアノを2人で弾いたりすることを指して
- ⑬〇〇〇通りといえば、主要な繁華街のこと。仙台市では、光のページの会場にもなる、定禅寺通や青葉通がそうでしょう
- ⑭故事からの言葉。敵に〇〇を送る
- ⑮野暮の反対語。あか抜けていたり、人情があったり
- ⑯古く公家などが使っていた一人称

ヨコのカギ

- ①仙台市で雑煮に欠かせないのが、焼き〇〇
- ③仙台市の歴代最低気温が-11.7℃。この「-」記号を読むと？
- ⑤通販といえば、〇〇〇〇販売の略
- ⑦目を細くして開けること
- ⑧東北地方の山間部で、古い猟法で狩りをする人
- ⑩俗に、仕事に必要な一揃いは、〇〇〇道具
- ⑪宮城県の旧国名は、近県と合わせて陸奥でした。では、現在の山形と秋田の2県にあたる旧国名は？
- ⑫ことわざ。鶴は千年、〇〇は万年
- ⑬ことわざ。〇〇に交われば赤くなる
- ⑮新年の干支、ヘビの文字を含んだ、〇〇〇〇市の金蛇水神社。仙台市に分祀があります
- ⑰仙台市で初詣といえば、やはり〇〇〇〇八幡宮が代表格
- ⑱東北新幹線、仙台駅から新青森駅までの距離は約350〇〇

前回のこたえ

A カ B ゼ C ヨ D ボ E ウ

でした。

1	2	3	4	5	6	7	8	9
ハ	セ	ク	ラ	ノ	リ			
5	ク	リ		6	イ	ド	ウ	
		サ	7	カ	キ	8	カ	9
10	イ	ワ	11	デ	12	ド	ン	コ
		13	サ	14	シ	ン		ウ
15	ゼ	16	ヨ	17	ウ			
		18	フ	ク	19	ソ	20	ボ

編集後記

「近況報告」に登場くださるご家族も、羨ましいぐらいにお互いを思いやり、慈しみ合っています。堀切町内会長夫妻は、お互いの存在が生きる力と語ります。愛に溢れていますね。(芳賀)

今回いくつかのスポーツチームにお邪魔しました。競技は違えど、仲間と力を合わせて汗を流す姿は美しいと感じました。この1年で体重が8kgほど増えている私も見習わなければ。(おおが)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mwww.or.jp